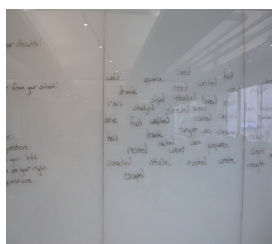


# 芸術空間のなかで学ぶ

アクティブ・ラーニング・スタジオが、D棟に本格オープン。



2018年1月16日「ア

カデミック・スキル演習」  
（アカスキ）の補習の場  
として昨年E棟の212教  
室に仮設されていたアク  
ティブ・ラーニング・スタ  
ジオが、D棟の112教室  
に場所を移して本格オー  
プンした。（撮影・取材・文：  
添田一真）

アクティブ・ラーニン  
グ・スタジオは、フランス  
在住の現代美術作家の佐藤  
利成氏の協力を得た内装が  
ほどこされている。いわば  
芸術作品でもある。基礎・  
教養教育センター長の荒谷  
大輔教授は、「気持ちよい  
という感覚を持ってもらい  
たい」という。心地よい場  
所でこそ、学習も捗るとい  
うことだ。

同スタジオに入って、右  
側の間仕切り風のガラス  
が、壁に対して内側に少し  
傾いている。そのガラスと

直角させて机が設置されて  
いる。天井には机と平行に  
なるよう斜めに照明が設置  
されている。この縦横斜め  
が整然と交差した美しい空  
間構成が荒谷教授のオスス  
メのポイントだ。

ここでは、イベントも毎  
週行われている。素朴な疑  
問についてお茶を飲みなが  
ら考え続ける哲学カフェ、  
英語力を身に付けるために  
ネイティブの先生と英語  
で会話をするイングリッ  
シュカフェ、ITパスポー  
ト試験の対策をするために  
設けられた1パス勉強会、  
「アカスキ」で学んだ日本  
語よりさらに高度な日本語  
力を身に付けるための日本  
語検定対策演習の4つだ。

同スタジオには、天板が  
合板ではなく一枚板で作ら  
れた木製の大きな机、木製  
の椅子など良質な仕器がそ  
ろい、上質な空間が演出さ  
れている。座席も十分に用  
意され、一度にたくさんの  
学生が利用できる。

カウンター席の窓側は、

一人で学習に集中したいと  
きに利用できる。同スタジ  
オは、飲食も可能なので、  
まるでカフェ感覚で学習で

きる。

学生が利用できるスペー  
スの両端には、大判のガラ  
スが設置されている。マー  
カーが使えるので、ホワイ  
トボードの代わりとなる。  
イングリッシュ・カフェで  
使われているが、学生たち  
も自由に使うことができる。

この学習環境を守るため  
には、「ものを大事にする  
という心が大切」と荒谷教  
授は言う。「日常生活で使  
い捨てのものに慣れてしま  
うと、本質としての物の感  
覚がなくなってしまう。だ  
から、ここでは物の永続性  
も感じてほしい」と

快適な学習空間である同  
スタジオは、そこで学習す  
る学生の存在を含んだ芸術  
作品ともいえる。ここを維  
持させ完成させていくの  
は、学生自身なのだ。

アカデミック・スキル演習と  
は、論文を書く際に必要な国語表  
現と、パソコンを用いたIT技術  
を学ぶために今年度から導入され  
た1群基礎科目の一つである。基  
礎・教養教育センターが担当し全  
学部学科の学生が受講する。